

7 音楽

○内容の構造

- ・音楽の内容は、ア「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イ「知識」に関する資質・能力として示されていました。

○概要

- ・内容項目は、9つの項目で示しています。

○表の見方

- ・事項に関する解説があるものは、より具体的に記されている部分を示しています。
- ・表については、小学部は1・2・3段階、中学部は4・5段階、高等部は内容項目の6・7段階までの階層を示しています。
- ・特別支援学校学習指導要領の解説にある「例えば」に続くそれぞれの事項の内容を補う具体例や記述部分は、優先的に示しています。また、共通事項、指導計画作成上の配慮事項等より周知しておきたい項目として、「音符・休符・記号や用語」「国歌君が代」「音楽づくり」「歌唱共通教材」を共通事項の項目として示しています。
- ・指導内容とも配慮事項ともとれるところは省いているので、特別支援学校学習指導要領解説を読んで指導内容等を設定してください。

○教科の特質や作成者の思い

- ・今回の改訂で、「音楽遊び」と類似の事項として、小学部の2段階の音楽づくり分野の中に「音遊び」が示されています。「音楽遊び」とは違う概念として用いていることを明確にするため、「A表現」の項目の後に、「留意点」として、「音楽遊び・音遊び」という項目を新たにし、小学部1段階の音楽遊びと小学部2段階の音楽づくりの参考として加えている。さらに、中学部の内容が4・5段階の二つの段階で表され、学習が質的に高まっていくように示されています。
- ・小学部、中学部、高等部の音楽科の特別支援学校学習指導要領の目標・内容を、特別支援学校学習指導要領解説を元に、各教科編の巻末の目標・内容の一覧を参考にまとめました。年間計画や指導案作成において、共通事項、指導計画作成上の配慮事項等、より具体的に知りたいときには、この一覧表を元に、学習指導要領解説をみていただくとありがたいです。

音楽

音楽													
目標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。												
知識及び技能	(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。												
思考力、判断力、表現力等	(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。												
学びに向かう力、人間性等	(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。												
段階の目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小1段階</th> <th>小2段階</th> <th>小3段階</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。</td> <td>ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</td> <td>ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</td> </tr> <tr> <td>イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。</td> <td>イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。</td> <td>イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。</td> </tr> <tr> <td>ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしよとする態度を養う。</td> <td>ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしよとする態度を養う。</td> <td>ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。</td> </tr> </tbody> </table>	小1段階	小2段階	小3段階	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしよとする態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしよとする態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。
小1段階	小2段階	小3段階											
ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。											
イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。											
ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしよとする態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしよとする態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。											
知識及び技能													
思考力、判断力、表現力等													
学びに向かう力、人間性等													
内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小1段階</th> <th>小2段階</th> <th>小3段階</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。</td> <td>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 ・好きな歌、なじみの歌、特徴的で分かりやすいところのある歌、旋律やその中の言葉の一部に繰り返しのある歌などの一部分。</td> <td>(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。</td> </tr> <tr> <td>(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。 ・自分なりの表し方によって聴こえてくる音や音楽に気付くこと。</td> <td>(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 歌詞に繰り返しがあったり、歌詞の「音(おん)」が繰り返されてリズムとして分かりやすいものなどに気付いたりすること。 ㉘ 曲名に出てくる具体的な事物に気付いたり、「ぐるぐる」、「キューキュー」などの擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さのある言葉などに気付いたりすること。</td> <td>(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気付くこと。 ㉘ その言葉に含まれている物の名前や風景などのイメージをふくらませ、感じたこととその曲の速度や強弱などとの関わりに気付くこと。</td> </tr> </tbody> </table>	小1段階	小2段階	小3段階	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 ・好きな歌、なじみの歌、特徴的で分かりやすいところのある歌、旋律やその中の言葉の一部に繰り返しのある歌などの一部分。	(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。	(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。 ・自分なりの表し方によって聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 歌詞に繰り返しがあったり、歌詞の「音(おん)」が繰り返されてリズムとして分かりやすいものなどに気付いたりすること。 ㉘ 曲名に出てくる具体的な事物に気付いたり、「ぐるぐる」、「キューキュー」などの擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さのある言葉などに気付いたりすること。	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気付くこと。 ㉘ その言葉に含まれている物の名前や風景などのイメージをふくらませ、感じたこととその曲の速度や強弱などとの関わりに気付くこと。			
小1段階	小2段階	小3段階											
ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 ・好きな歌、なじみの歌、特徴的で分かりやすいところのある歌、旋律やその中の言葉の一部に繰り返しのある歌などの一部分。	(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。											
(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。 ・自分なりの表し方によって聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 歌詞に繰り返しがあったり、歌詞の「音(おん)」が繰り返されてリズムとして分かりやすいものなどに気付いたりすること。 ㉘ 曲名に出てくる具体的な事物に気付いたり、「ぐるぐる」、「キューキュー」などの擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さのある言葉などに気付いたりすること。	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気付くこと。 ㉘ その言葉に含まれている物の名前や風景などのイメージをふくらませ、感じたこととその曲の速度や強弱などとの関わりに気付くこと。											
A 表現	<p>音楽遊び</p> <p>・歌唱</p> <p>(中1～高2段階は歌唱)</p>												

音楽

<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>		<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。</p>	<p>ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。</p>	<p>ア 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>	<p>ア 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。 ・元気な歌は大きな声で元気よく、ゆっくり穏やかな歌は優しい声でそっと歌うなど、その曲の雰囲気を感じて、それに合いそうな歌い方を考えること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 元気が出る雰囲気の曲や穏やかな気持ちになる雰囲気の曲など、その曲から受ける印象と、速度や音の大きさ、音の重なりなどとの関係について気付くこと。 ㉘ 速度や曲の調性などによって生み出されるその音楽の雰囲気や表情、味わいと、歌詞で表されている情景やイメージとの関係とといったことに気付くこと。</p>		<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。 ㉘ 曲種に応じた声の出し方などによる声の音色や響きがあり、それらは発声の仕方の違いによって生まれるものであることを理解すること。</p>	

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
A 表 現	音楽遊び ・ 歌唱 (中1～高2段階は歌唱)	<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 音楽が流れる中で手足を動かしたり、全身を揺すったりする動きのこと。</p> <p>⑧ 手足を使って楽器を鳴らしたり、ばちを使って音を出したりする動きのこと。</p> <p>⑨ 音楽が流れている中で、それに合わせて声を出したり、音楽が止まった時などに声を出したりすること。</p>	<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 教師の歌声を聴いて、まねをしてみようと声を出したり、曲の歌詞に使われている言葉の一部分を歌ったり、曲の抑揚をまねて声を出したりすること。</p> <p>⑧ 声を出している自分に気付いて意図的に声を出したり、出した声を自分なりに聴いていたりすること。出す声の大きさや高さなどは、3段階の指導で取り扱っていく。</p> <p>⑨ 思いに合った表現をするために互いの歌声を聴いて、教師や友達と声を合わせて歌うこと。</p>	<p>(ウ) 思いに合った歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>・自分なりに楽しんで声を出したり、うれしそうな表情で歌ったり、曲を自分なりに思い浮かべて、思わず声を出しているような様子など。</p> <p>⑦ 思いに合った表現をするために必要な範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌うこと。</p> <p>⑧ 「こう歌いたい」という思いをもちながら、それを表現するために、自分の歌声や発音などに注意を向けて歌うこと。</p> <p>⑨ 思いに合った表現をするために必要な互いの歌声や伴奏を聴いて、教師や友達と声を合わせて歌うこと。</p>
	器楽		<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。</p> <p>・自分で楽器をたたいたり振ったりして、意図的に音を出してみようという気持ちをもつこと。</p> <p>・1段階で取り上げた打楽器に加えて、例えば、両手で操作するタンバリン、ウッドブロック、ギロなどの楽器や、音階や和音を鳴らすことができる木琴、キーボードなどの楽器のこと。</p>	<p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。</p> <p>(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。</p> <p>⑦ 音の強弱の違いや速度の違いに気付いたり、「タンタン」と「タタタタ」などのリズムの違いに気付いたりすること。</p> <p>⑧ そとと音を出したときと強く音を出した時の音色の違いに気付くこと。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりすること。</p> <p>⑧ 声の大きさをコントロールしたり、きれいな声で歌うために姿勢や口形、呼吸法などに留意したりして歌うこと。</p> <p>⑨ 友達の歌声を聴いて合わせて歌ったり、合図を送って歌ったり、伴奏を聴いて速さや歌い出しなどを合わせて歌ったりすることなど、友達と合わせる、ということに意識を向けながら歌うこと。</p>	<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 歌詞を覚え、歌詞の表す情景や曲想について、イメージを持ち、歌詞の内容を意識して歌ったり、リズムや音の高低を意識して発声したりすること。</p> <p>⑧ 歌を歌うときに、発音に意識を向けたり、姿勢や口形、呼吸法などに留意したりして歌うこと。</p> <p>⑨ 自分の思いや意図に合った歌唱表現をしたり、教師や友達の歌や伴奏の響きを聴きながら思いや意図にふさわしい歌声になるように意識したり、相手に合わせて自分の声の大きさや声の出し方などをコントロールしながら歌ったりすること。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ リズムや旋律に気を付けて聴くだけでなく、音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて、課題意識をもって聴き、それを聴いて自分の表現がより豊かになるように聴唱すること。</p> <p>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連及び音符、休符、記号や用語の指導も併せて行い、音楽の流れを感じながら読譜できるようにすること。</p> <p>⑧ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。</p> <p>⑨ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。</p> <p>⑧ 全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付けること。</p>
<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>		<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	
<p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>・元気な曲は元気よく、ゆっくり穏やかな曲は、やさしく演奏するなど、その曲の雰囲気を感じて、それに合いそうな演奏の仕方を考えること。</p>	<p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>・曲のリズムや速度、その曲のもつ雰囲気などを感じて、そのことを生かせるような演奏の仕方を考えること。</p>	<p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>・曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考え、どのように器楽表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>	
<p>(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。</p> <p>⑦ 「ゆったりとした感じから弾んだ感じに変わったのは、途中からタッカのリズムが多くなった」といったことに気付くこと。</p> <p>⑧ 自分一人の演奏だけでなく友達と合わせた時の響きといったことに気付くこと。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの関わり合いを理解すること。</p> <p>⑧ 小学部や中学部1段階で経験した楽器に加えて、和楽器や諸外国の楽器などの様々な楽器を用いて、友達と一緒に演奏した時に、楽器の組合せなどを工夫することにより、その音色や響きは変化すると理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>⑧ 様々な楽器を用いて、友達と一緒に演奏した時に、中学部2段階までに学んだ楽器の組合せを変え、自分の演奏の仕方を考えることによって、その音色が変化するということを理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>⑧ 声の音色や響き及び言葉の特性が生み出す特質や雰囲気を感受し、感受したことと発声との関わりを自分自身で捉えていくこと。</p>

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
A 表 現	器楽		<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑭までの技能を身に付けること。合図に合わせて楽器を鳴らしたり、教師の演奏の様子を見たり演奏を聴いたりして、同じように音の強弱や鳴らし方などをやってみようと思っ、演奏すること。</p> <p>⑦ 教師の範奏を見ることと聴くことを同時に行い、音の出し方を模倣して演奏すること。</p> <p>⑧ 身近な打楽器を使って、楽器の持ち方や音の出し方がわかり、演奏すること。</p> <p>⑨ 教師や友達の演奏を聴きながら、あるいは教師の合図を手掛かりに、それに合わせて一緒に演奏すること。</p>	<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑭までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 楽器の絵を順番に並べて書いた絵譜や「どみどみ」のように文字で音符、リズム、旋律、和音を描いた楽譜など簡単な楽譜を用いて、見ることと演奏することを同時に行い、教師の演奏を模倣したり、合図に合わせてりしながら、さぐり弾きや部分奏、簡単な合奏などを行うこと。また、自由に演奏するだけでなく指揮や合図を見て、「タンタンタン」や「タンウンタンウン」などを意識して演奏すること。</p> <p>⑧ 2段階の打楽器に加えて、鍵盤楽器やリコーダーなどの旋律楽器や、単音グロッケンやハンドベルなどの一音一音が別々に出せる有音程の打楽器など身近な打楽器や旋律楽器を使って、曲の一部を演奏すること、また、旋律楽器を打楽器のように演奏して、和声の一部を奏でることである。その際、楽器の固有の音色を意識した「打ち方」や「弾き方」などを身に付けるようにすること。</p> <p>⑨ 自分の音だけではなく友達の音を聴きながら演奏する技能を身に付けること。</p>
	音楽づくり ・ 創作 (高1・高2段階は 創作)		<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(イ) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。</p> <p>⑦ 音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。</p> <p>・音遊びとは、友達と関わりながら、声や身の回りの様々な音に親しみ、その場で様々な音を選んだりつなげたりして表現すること。</p> <p>リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び、言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び、身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見つけて表現する遊びなど。</p> <p>⑧ このような音楽をつくりたいといった考えをもつこと。</p>	<p>(イ) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。</p> <p>⑦ 音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、声や身の回りの様々な音を、その場で選んだりつなげたりする中で生まれる、「これらの音をこうしたら面白くなる」という考えをもつこと。</p> <p>⑧ どのように音を音楽にしているかについて思いをもつこと。</p>
			<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。</p> <p>⑦ 歌声だけでなく、ささやき声やため息のように、息を使った声、擬声語や擬態語などや、自然や生活の中で耳にする音、身近な楽器や身の回りのもので出せる音のこと。</p> <p>⑧ 音楽の仕組みを手掛かりにして、それぞれの音を関連付けながら一つのまとまりを形づくるようにしていくこと。</p> <p>・わらべうたに使われている音を用いて、「よびかけ」と「こたえ」になるような短い旋律をつくる活動や、短いリズムをつくり、それを反復して簡単な音楽にする活動など。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。</p> <p>⑦ 声や身の回りの様々な音の特徴に気付くこと。</p> <p>⑧ 簡単なリズムや児童にとってわかりやすい、例えば、「タンタンタンウン」、「タン・タタ・タン・ウン」のパターンについて、それが生み出す面白さなどに関わって気付くこと。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(7) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付けること。</p> <p>⑧ 力をコントロールして強弱やアクセントを意識し、全体の響きを感じながら演奏すること。</p> <p>・合奏にあたっては、卓上木琴、卓上鉄琴、卓上ベル、リードを交換して音を出す笛などの打楽器や音の高さが変わる楽器を利用し、和音としての響きや、旋律を奏でる楽しさを味わうことができるようにすること。</p> <p>⑨ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること。</p>	<p>(7) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏すること。</p> <p>⑧ 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏すること。</p> <p>⑨ 友達の演奏を聴きながら、自分の演奏のリズムや速度をそろえようと意識して演奏すること。</p> <p>・演奏する人数を少なくすることによって、他者の音と自分の音の聞き分けやすくなり、パートごとに演奏を行うこと。</p>	<p>(7) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 楽譜と音との関連を意識した指導の一層の充実を図り、音楽を形づくっている要素や要素同士の関わり及び音符、休符、記号や用語の指導も合わせて行い、音楽の流れを感じながら読譜できるようにすること。</p> <p>⑧ 木琴や鉄琴の演奏では、表現したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さに気を付けたり、リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方などに気を付けたりするなど、音色や響きに応じた演奏の仕方を身に付けるようにすること。</p> <p>⑨ 中学2段階までに身に付けた演奏の技能を生かすことができるよう、生徒の実態を踏まえて、易しいリズムや旋律の演奏から徐々に難易度を上げるなど、継続的に取り組むようにすること。</p> <p>⑩ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること。</p>	<p>(7) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑩の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 楽器固有の演奏方法、身体の使い方など、生徒が思いや意図との関わりを捉えられるようにしながら行うこと。</p> <p>・姿勢や楽器の構え方、発音する際の身体の動かし方など身体の使い方について、鏡を用いてまねしたり、写真や動画などを使ったりすること。</p> <p>⑧ アンサンブルを行う際の各声部の他に、伴奏、我が国の伝統音楽における掛け声なども、声部として含み、自分と同じ声部の他者の音や、他の声部の音などとの重なりやつながりを聴きながら演奏する技能や生徒が思いや意図をもち、全体の響きと各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けられるようにすること。</p>
<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>		<p>ウ 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	
<p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑩をできるようにすること。</p> <p>⑦ 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。</p> <p>⑧ 音楽の仕組みを手掛かりとして、いくつかの音を関連付けてまとまりのある音にしていくこと。</p>	<p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑩をできるようにすること。</p> <p>⑦ 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>⑧ 楽譜に示されているとおりに表現するのではなく、その場で直観的に選択したり判断したりして表現すること。</p> <p>⑨ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。</p>	<p>(7) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>・音楽をつくっていく過程で、思いや意図を伝え合うことと実際に音で試すこととを繰り返しながら、表現を工夫し、思いや意図を膨らませるように促すこと。</p>	<p>(7) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>・音や音楽に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表現したい創作表現について考え、どのように創作表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>
<p>(4) 次の⑦及び⑩について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。</p> <p>⑦ 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質によって音の特徴や雰囲気異なったりするといったことに気付くこと。</p> <p>⑧ リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴に気付くこと。</p>	<p>(4) 次の⑦及び⑩について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の素材や楽器そのものも固有の響き、材質による音の響きの違い、音を出す道具による音色の違いといったことを理解すること。</p> <p>⑧ 音を組み合わせるつなげ方、リズム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりといったことを理解すること。</p>	<p>(4) 次の⑦及び⑩について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の素材や楽器そのものも固有の音の響き、木、金属、皮など、それぞれの材質がもつ音の響き、音を出す道具によって変わる音の響き等を理解すること。</p> <p>⑧ 音を組み合わせるつなげ方、リズム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりすることやリズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりといったことを理解すること。</p>	<p>(4) 次の⑦及び⑩について、表現したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の高さに着目すると、順次進行であるか跳躍進行であるか、上行しているか下行しているかといったことや、八分音符が連続してつながるのか二分音符が連続してつながるのかによって、動きを感じたり、落ち着きを感じたりすること。</p> <p>・順次進行であるか跳躍進行であるかによって、滑らかさを感じたり勢いを感じたりすること。また、八分音符が連続してつながるのか二分音符が連続してつながるのかによって、動きを感じたり、落ち着きを感じたりすること。</p> <p>⑧ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解すること。</p>

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
音楽づくり ・ 創作 (高1・高2段階は 創作)			<p>(7) 気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ あらかじめ決められたとおりに表現するのではなく、設定した条件に基づいて、その場で選んだりつなげたりして表現すること。</p> <p>⑧ 教師や友達が発する声や音の特徴を注意深く聴きながら、音を簡単な音楽にしていくこと。</p>	<p>(7) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 音を選んだりつなげたりして表現すること。</p> <p>⑧ 呼びかけとこたえになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動、擬声語や擬態語など、ことばのリズムにのせて反復したり組み合わせたりするなど、教師と一緒に音楽の仕組みを使って、音を音楽にしていくこと。</p>
			エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
A 表 現			<p>(7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。</p>	<p>(7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。</p>
	身体表現		<p>(4) 次の⑦及び⑧について気付くこと。</p> <p>⑦ 覚えやすい特徴のあるリズムの曲を使用する場合に、繰り返し動くことで、そのリズムの特徴を身体で受け止めて気付くこと。</p> <p>⑧ 「マーチ」、「タンゴ」、「ぞうさん」、「うさぎのダンス」といったそれぞれの曲に見られる特徴的なリズムや固有名詞等から、ゆったりと歩く、リズムカルに跳ねるなどという動きの種類を想起すること。</p>	<p>(4) 次の⑦及び⑧の関わりについて気付くこと。</p> <p>⑦ 曲のリズム、速度、旋律に気付くこと。</p> <p>⑧ 児童が、ある動物名が付いている曲名やその歌詞の一部に出てくる動きを表す言葉と、それらを表すリズムや速度、旋律のつながりに気付くこと。</p>
			<p>(7) 思いに合った動きで表現するために必要な次の⑦から⑧までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ はじめは示範をまねして動き、拍や特徴的なリズムを感じ取った動きで表現しながら、徐々に主体的に表現できるようにすること。</p> <p>⑧ 音や音楽を聴いて感じた思いに合った手足の動きで表現したり、身体全体を使った動きで表現したりすること。</p> <p>⑨ 近くにいる教師や友達と手をつないで、小さな動きから、揺れる動きを徐々に大きくしていくことで、動きの広がりによる豊かな表現にすること。</p>	<p>(7) 思いに合った体の動きで表現するため（2段階で表現した動きから、よりふさわしいと思う動きで表現することを大事にしていること）に必要な次の⑦から⑧までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 示範の表現を見ながら、自分が意識した拍やリズム、旋律を表現すること。</p> <p>⑧ 拍は足踏みで表現し、旋律は腕の動きで表現すること。</p> <p>⑨ 旋律やリズム、和音の響きといった音の厚みを、友達と一緒に感じながら表現すること。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(カ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の⑦及び④の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現すること。</p> <p>④ 音楽の仕組みを使って、音を簡単な音楽にしていくことができること。</p> <p>・「呼びかけとこたえ」を使い、一つの声部の呼びかけに、他の声部がこたえるように音楽をつくっていくなどといったこと。</p>	<p>(カ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の⑦及び④の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 「ソラシの三つの音を使い、一人一人が4拍で即興的に表現し、順番に旋律をつなぐ」といった設定条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現すること。</p> <p>④ 音楽の仕組みを使って、音を音楽へと構成することができること。</p> <p>・「反復と変化を使い、短いフレーズを反復させた後、変化させて、また最初の短いフレーズを反復させてつくっていく」などといったこと。</p>	<p>(カ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・旋律や音楽をつくる前提として課された内容やつくる際の約束事のことであり、旋律や音楽をつくる学習をする際に必要な「〇〇の音(楽器)を用いて、〇〇のような旋律をつくらう」というような場合である。したがって、指導のねらいに応じて適切な課題や条件を設定することや、「課題や条件」のイメージがもちにくい生徒には具体的な音の選択肢を提示したり、教師と一緒に音を出しながら説明したりすること。</p>	<p>(カ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・技能が、生徒にとって思いや意図を表すために必要なものとなるよう指導すること。</p> <p>・旋律や音楽をつくる前提として課された内容やつくる際の約束事の「課題や条件」のイメージがもちにくい生徒には具体的な音の選択肢を提示したり、教師と一緒に音を出しながら説明したりすること。</p>
<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
<p>(キ) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。</p>	<p>(キ) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。</p>	<p>(キ) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。</p> <p>・身体表現を創意工夫するためには、その過程で新たな知識や技能を習得することと、これまでに習得した知識や技能を活用すること。</p>	<p>(キ) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。</p> <p>・音や音楽に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働きや関係性を試行錯誤しながら、表現したい身体表現について考え、どのように身体表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>
<p>(ク) 次の⑦及び④の関わりについて気付くこと。</p> <p>⑦ 旋律と和声のような、音楽の構造に気付いて、自分がふさわしいと思う動きで表現しようとするなどにより、それらの関わりについて気付くこと。</p> <p>④ 「ダンス」、「ポルカ」のような曲名や「煙たなびく」のような歌詞から想起する動きを体の動きで表現できるといったことに気付くこと。</p>	<p>(ク) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ ゆったりした感じから弾んだ感じに変わったことなどについて、旋律と和声のような、音楽の構造との関係といったことを理解すること。</p> <p>④ 「ダンス」、「ポルカ」などのような曲名や「煙たなびく」などのような歌詞から想起する情景と動きとの関係といったことを理解すること。</p>	<p>(ク) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ 音楽固有の雰囲気や表情、味わい、音楽の構造によって生み出されるもの。音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有様などとの関わりについて理解すること。</p> <p>④ 「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がする」と感じ取った生徒が、リズムに着目してスキップをしながら、身体表現すること。生徒が音楽活動を通して、実感を伴って理解できるようにすること。</p>	<p>(ク) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造によって生み出されているのかを捉えていくこと。</p> <p>④ 「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が、旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から、力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現することなど。</p>
<p>(ケ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 示範を参考にして動き、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現できるようにすること。</p> <p>④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせるために、感じたことを話し合ったり、動きのアイデアを出し合ったりしたことを、動きに表す技能を身に付けること。</p>	<p>(ケ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 示範を参考にしたり、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現したりすること。</p> <p>④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせるために、感じたことを話し合うことや、出したアイデアを、まとめて動きに表すこと。</p>	<p>(ケ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなど、創意工夫を生かした表現をする技能を身に付けること。</p> <p>④ ⑦で示した動きを、複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すこと。</p> <p>⑦ ⑦や④の技能を活用した動きについて、生徒が考え工夫した表現を組み合わせる動きに表すこと。</p>	<p>(ケ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ ⑦の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能を身に付けること。</p> <p>④ ⑦で示した動きを、複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すことや、感じたままに自由に動きながら、ふさわしいと思う表現にまとめていくこと。</p> <p>⑦ ⑦の曲の特徴を捉えて、どのように表現するかについて思いや意図をもつこと、【共通事項】との関連を十分に図り、指導する教師が動きを見本として提示することや、曲の雰囲気を感じ取りやすく自ら創意工夫したり、友達と一緒に表現したりする喜びを味わうことができる音や音楽を取り上げるようにすること。</p> <p>・友達と一緒に意欲的に身体表現の活動を進めること。</p>

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
留意点	音楽遊び ・ 音遊び	※「音楽遊び」とは、発達段階が初期の児童にとっての音楽活動として、歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の活動を通して育成を目指す資質・能力の基礎を培う重要な活動。 ※新たな知識や技能を習得することと、これまでに習得した知識や技能を活用すること。	※音楽的な約束事を決めて音で表現していく「音遊び」と遊びの中で自然に音や音楽に気付き自分なりに表現していく「音楽遊び」とは違う概念として用いていることに留意すること。 ※1段階の音楽遊び分野では、2段階の歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現、及び鑑賞の基礎となるような知識や技能、「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力を育てていくこと。 ※児童が音や音楽に気付くように教材や指導の手立てを工夫しながら、児童が表現する音や音楽に関心や興味を示し、自ら関わろうとする気持ちがもてるように指導すること。	
	音楽遊び ・ 鑑賞 (小2～高2段階は鑑賞)	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする事 こと。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	(ア) リズムや速度の面白さに気付き、自然と体が動いたり、自分の好きな部分を口ずさんだり、踊ったりしながら聴いたり、逆に自分の好きな曲に対し、動きを止めてじっと耳を傾けて聴くこと。
B 鑑賞		(イ) 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。 ・音が聴こえてきたと思うなど、音に反応できるということ。	(イ) 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	(イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
	音符 ・ 休符 ・ 記号や用語	イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。 ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語については、児童の発達の段階に合わせた理解を促しやすい色の付いた音符や色分けした絵譜などを活用しながら、知識を増やし生活の中でも活用できるようになることに配慮して指導すること。 ・「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の実態や学習状況を考慮して、中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2の(10)に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。		
共通事項		コ 2の目標及び内容の〔共通事項〕の(1)のアに示す「音楽を形づくっている要素」については、児童の発達の段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)を適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて指導すること。		
		(ア) 音楽を特徴付けている要素 ⑦ 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど (イ) 音楽の仕組み ⑦ 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など ※特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月 P、180～181参照		
	国歌 「君が代」	オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・入学式や卒業式等の様々な場面において、小学部は6学年間、中学部は3学年間を通じて歌われるものである。 ・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の児童に即した指導の工夫を行うこと。 ・国歌「君が代」は、日本国憲法の下において、日本国民の総意に基づき天皇を日本国及び日本国民統合の象徴とする我が国の末永い繁栄と平和を祈念した歌であることを踏まえること。		

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
(ア) 曲の雰囲気や表情を感じ取ったり、音楽がどのように形づくられているのかを捉えたりしながら、その音楽について自分が気に入ったところなどを見付けて聴くこと。	(ア) 曲のある一部のフレーズやリズムを聴くだけでなく、曲全体の流れを聴くようになること。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。
(イ) 「楽しく感じるのは、カッコカッコと同じリズムを繰り返して打っているのに、時々リズムが変わったり、途中からチリリリーンという音が入ったりするから」といったことが分かること。	(イ) 曲の雰囲気や表情、味わい及びその変化と音楽の構造との関わり合いといったことを理解すること。	(イ) 曲全体の雰囲気や表情、味わいとその移り行く変化について、音楽を形づくっている要素や要素同士の間連との関係で理解すること。 ・「ゆったりとしておだやかな感じから、動きのあるにぎやかな感じに変わったのは、低音の楽器が単独でテンポもゆっくり演奏されていた音楽から、高音の楽器が複数同時にテンポも速く演奏される音楽になったから」といった生徒が感じ取った曲想及びその変化を基にしながら、曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるようにすること。	(イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ⑦ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。 ⑧ 生活年齢からみた体験の広がりからその背景となる文化や歴史などを考える基盤ができていく地域に学習の場が広がっていくことなどを生かして、音楽への興味関心を引き出すこと。
イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。		イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。	
・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語については、生徒の発達の段階に合わせた絵譜や色を付けた音符などを活用しながら、知識を増やし生活の中でも進んで活用できるようにすることに配慮して指導すること。		・音楽を形づくっている要素については、生徒の発達の段階や指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて適切に指導すること。	
※小学部学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示す「音符・休符・記号や用語」を参照（P. 125 平成29年3月告示）			
コ 2の目標及び内容の【共通事項】の(1)のイに示す「音楽を形づくっている要素」については、生徒の発達の段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)を適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて適切に指導すること。		サ 【共通事項】の(9)のイに示す「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の実態や学習状況を考慮して、中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2の(10)に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。	
(ア) 音楽を特徴付けている要素 ⑦ 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど (イ) 音楽の仕組み ⑧ 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など ※特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月 P. 180～181参照		※小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2参照 ※中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2参照	
オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。		オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。	
・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。 ・国歌「君が代」は、日本国憲法の下において、日本国民の総意に基づき天皇を日本国及び日本国民統合の象徴とする我が国の永久の繁栄と平和を祈念した歌であることを踏まえること。		・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。 ・教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。	

音楽

内容	小1段階	小2段階	小3段階																
音楽づくり (6～7段階は 創作教材)		<p>ク 2段階及び3段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音（既製の楽器に拘らず、自分の体を叩いたり、音や床や壁を踏みしめたりして出る音）を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、児童の実態に応じて児童の目の前で実際に動いて見本を見せることや、つくる長さを図や絵にして、始まりと終わりを分かりやすくするなど具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、自分が関わってつくった音楽のリズムや旋律、長さなどが分かりやすいような記録の工夫が求められ、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階（わらべうたや民謡など）や調性にとられない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>																	
共通事項	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 児童の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、(ウ)の共通教材を含めて、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲。</p> <p>・6年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流及び共同学習や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p> <p>(ウ) 共通教材は、次に示すものとする。</p> <table border="0" data-bbox="416 1048 1088 1368"> <tr> <td>「うみ」 (文部省唱歌)</td> <td>林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 井上武士 (いのうえ たけし) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「かたつむり」 (文部省唱歌)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「日のまる」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「ひらいたひらいた」 (わらべうた)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「かくれんぼ」 (文部省唱歌)</td> <td>林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「春がきた」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「虫のこえ」 (文部省唱歌)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「夕やけこやけ」</td> <td>中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞 草川 信 (くさかわ しん) 作曲</td> </tr> </table>			「うみ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 井上武士 (いのうえ たけし) 作曲	「かたつむり」 (文部省唱歌)		「日のまる」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「ひらいたひらいた」 (わらべうた)		「かくれんぼ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲	「春がきた」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「虫のこえ」 (文部省唱歌)		「夕やけこやけ」	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞 草川 信 (くさかわ しん) 作曲
「うみ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 井上武士 (いのうえ たけし) 作曲																		
「かたつむり」 (文部省唱歌)																			
「日のまる」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																		
「ひらいたひらいた」 (わらべうた)																			
「かくれんぼ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞 下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲																		
「春がきた」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																		
「虫のこえ」 (文部省唱歌)																			
「夕やけこやけ」	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞 草川 信 (くさかわ しん) 作曲																		

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて生徒の目の前で実際に動いて見本を見せることや、つくる長さを図や絵にして、始まりと終わりを分かりやすくすることなど具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階（わらべうたや民謡など）や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>
<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p>
<p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流及び共同学習や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>
<p>(ウ) 共通教材 ① 1段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「うさぎ」(日本古謡) 「茶つみ」(文部省唱歌) 「春の小川」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「ふじ山」(文部省唱歌) 巖谷小波(いわやさぎなみ)作詞 「さくらさくら」(日本古謡) 「とんび」 葛原(くずはら)しげる作詞 梁田貞(やなただだし)作曲 「まきばの朝」(文部省唱歌) 船橋栄吉(ふなばしえいきち)作曲 「もみじ」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲</p>	<p>(ウ) 共通教材 ② 2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「こいのぼり」(文部省唱歌) 「子もり歌」(日本古謡) 「スキーの歌」(文部省唱歌) 林 柳波(はやしりゅうは)作詞 橋本国彦(はしもとくにひこ)作曲 「冬げしき」(文部省唱歌) 「越天楽今様(歌詞は第2節まで)」(日本古謡) 慈鎮(じちん)和尚作歌 「おほろ月夜」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「ふるさと」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「われは海の子(歌詞は第3節まで)」(文部省唱歌)</p>	<p>(ウ) 共通教材 ③ 1段階及び2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「赤とんぼ」 三木露風(みきろふう)作詞 山田耕柞(やまだこうさく)作曲 「荒城の月」 土井晩翠(どいばんすい)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「早春賦」 吉丸一昌(よしまるかずまさ)作詞 中田 章(なかだあきら)作曲 「夏の思い出」 江間章子(えましょうこ)作詞 中田喜直(なかだよしなお)作曲 「花」 武島羽衣(たけしまはごろも)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「花の街」 江間章子(えましょうこ)作詞 團伊玖磨(だんいくま)作曲 「浜辺の歌」 林 古溪(はやしこけい)作詞 成田為三(なりたためぞう)作曲</p>	<p>(ウ) 共通教材 ④ 1段階及び2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「赤とんぼ」 三木露風(みきろふう)作詞 山田耕柞(やまだこうさく)作曲 「荒城の月」 土井晩翠(どいばんすい)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「早春賦」 吉丸一昌(よしまるかずまさ)作詞 中田 章(なかだあきら)作曲 「夏の思い出」 江間章子(えましょうこ)作詞 中田喜直(なかだよしなお)作曲 「花」 武島羽衣(たけしまはごろも)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「花の街」 江間章子(えましょうこ)作詞 團伊玖磨(だんいくま)作曲 「浜辺の歌」 林 古溪(はやしこけい)作詞 成田為三(なりたためぞう)作曲</p>

Date	Description